



先週の土曜日、たくさんの保護者の方にお越しいただきました運動会、いかがだったでしょうか？優先観覧席は広さの都合上、入場人数に制限を設けさせていただきましたが、保護者待機席の方は人数制限なく、コロナ禍前となりました。「やっと、ここまで来た」と運動会当日は感無量でした。また、本校の運動場の広さから十分な保護者席を確保できない現状でしたが、保護者の皆様方のご協力やPTAの方々のお声かけて、大きな混乱なく運動会を進めることができました。この紙面をかりまして、改めて感謝申し上げます。

さて、運動会当日は少し肌寒い日になりましたが、三和小の子どもたちは熱く元気に全力で競技や演技に取り組んでくれました。どの種目も子どもたちの頑張りが伝わり、どの種目も良かったのですが、その中でも1, 2年生の玉入れが心に残りました。1, 2年生の「かわいいダンス」と「必死な玉入れ」が入れ替わる様子、応援している3~6年生、そして何よりも応援団のみんなが一緒になってチェッコリを踊っている姿に、三和小の温かさや一体感を感じました。

そして、運動会後の10月24日の火曜日。狐井方面の1年生と一緒に下校していると、自然と赤組、白組それぞれの応援のかけ声が始まりました。1年生の心に、運動会が思い出として残っていることを嬉しく思いました。そんな1年生の姿を見ながら、少し先の未来にあるであろう高学年になった1年生が応援団として前に立ちチェッコリを踊っている姿を思い浮かべていました。



白組

令和6年の運動会では今年の応援旗が連なり、三和小の歴史として続いていきます



赤組

ある日の出来事

10月12日の朝、東門で子どもたちの登校を出迎えていると、人数が少ない部団が来ました。尋ねてみると、すぐ近くで低学年の子が転んでしまい、何人かが付き添っているとのこと。話を聞いて、転んだ場所に向かおうと走り出した時、「校長先生！」と呼び止める声が。振り向くと先ほどの部団の子の一人が植村の方に来て、「これ使ってください。」と絆創膏を差し出してくれました。転んだ子が心配で何か自分にできることはないかと考えての行動だったと思います。感謝の言葉をかけ1枚もらって再び向かうと、転んだ子が何人かに付き添われてやって来ました。この子たちも転んだ子が心配で付き添ってくれていました。そして、転んだ際にできた擦り傷にはすでに絆創膏が。聞くと地域の保護者の方が貼ってくれたようです。幸い、転んだ子はしっかりとした表情と足取りで歩いていました。

何気ない日々の些細な出来事なのかもしれませんが、三和小の子たちの、そして保護者の方の優しさを感じて、心がとても温くなりました。

